

真夏に『ペルセウス座流星群』がやってくる！

●見ごろ：8/12（火）深夜～13（水）明け方

観測日和：8/11（月）～8/13（水）の3夜 午後9時頃～明け方

春の大型連休中に、みずがめ座流星群がありましたが、夏休みには三大流星群と呼ばれる中の一つ、「ペルセウス座流星群」がやってきます。日頃の夜より多くの流星の出現が期待できます。

今年の極大（一番流星が多く飛ぶ時間）は8/13（水）の午前5時との予想なので、夜が明けていますので、13日（水）の明け方に近づくほどに、出現数が多いと思われます。

夏休み中なので、保護者の方に夜更かしの許しをもらい、夜空を見上げてください。

●ちょっと、お月さまが邪魔

すこし残念な情報ですが、この時期は、満月を過ぎて数日のため、明るいお月さまが、夜空に浮かび、観測には不利です。そのため、月のない方角を観測するのが良いと思います。

暗さに目が慣れるには15分ほどかかりますので、明るい月はなるべく見ないようにしましょう。

●観測日和は、3日間ほど

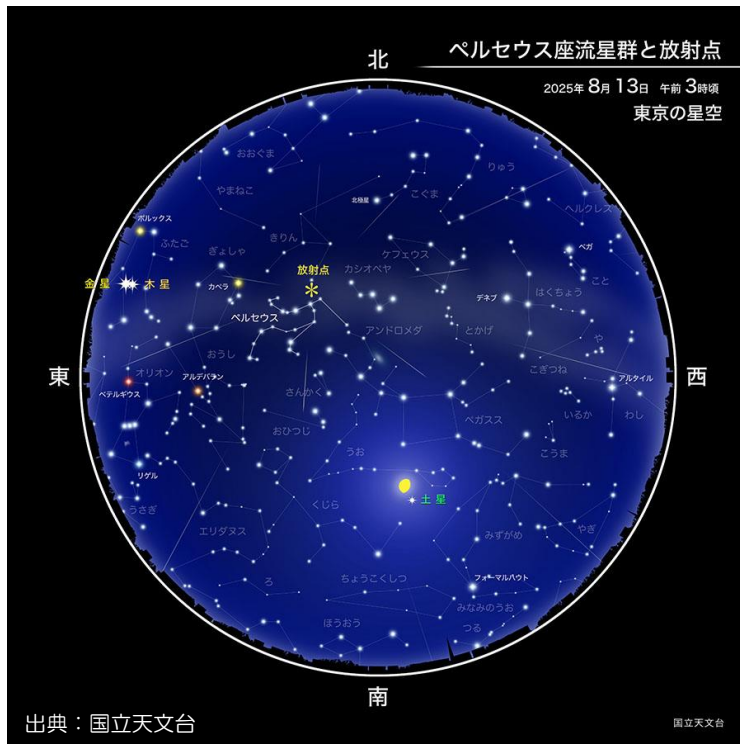
流星群は、極大日の前後にも期待できますので、今回の観測日和は、8/11（月）～8/13（水）のそれぞれ午後9時～翌朝方までです。暗い場所だと、1時間に20～30個ほどが期待できます。

●母天体は、スウィフト・タットル彗星

流星群は、彗星が太陽に近づいた時に溶けて吹き出し尾によって、軌道上に、小さな岩石などをばら撒きます。太陽を公転している地球が、その軌道上突入すると、その小さな岩石が地球の重力により落ちてきて、大気の摩擦で燃え尽きる現象です。ペルセウス座流星群の母天体は、太陽を133年周期で公転しているスウィフト・タットル彗星です。紀元前の中国の書物の記録にも出てきており、前回は1992年に観測されました。次にやって来るのは、100年後の2126年です。

【ペルセウス座は、ギリシャ神話に登場する勇者の姿】

ペルセウス座はギリシャ神話に登場する「勇者ペルセウス」の姿です。その姿を見た者は岩になってしまうという怪物メドゥーサを退治し、翼を持つ馬ペガサスに乗って帰国する途中、地中海上空で、生贄として、クジラの怪物に食べられそうになっていたアンドロメダ姫を見つけ、助けます。この物語に登場するペルセウス、ペガサス、アンドロメダ姫、カシオペア王妃、ケフェウス王、クジラはともに星座になっています。昔の人は夜空を見上げて、子供たちに物語を語ったのでしょね。星座絵で、左手に持つメドゥーサの顔にあるのが2等星の変光星アルゴルです。周期的に明るさを変える不思議な恒星で、悪魔という意味です。



■詳しい紹介は、下の国立天文台HPをご覧ください。

①ほしぞら情報ペルセウス流星群が極大(2025年8月)

<https://www.nao.ac.jp/astro/sky/2025/08-topics04.html>

②「ペルセウス座流星群とは」【国立天文台HP】

<https://www.nao.ac.jp/astro/basic/perseid.html>

